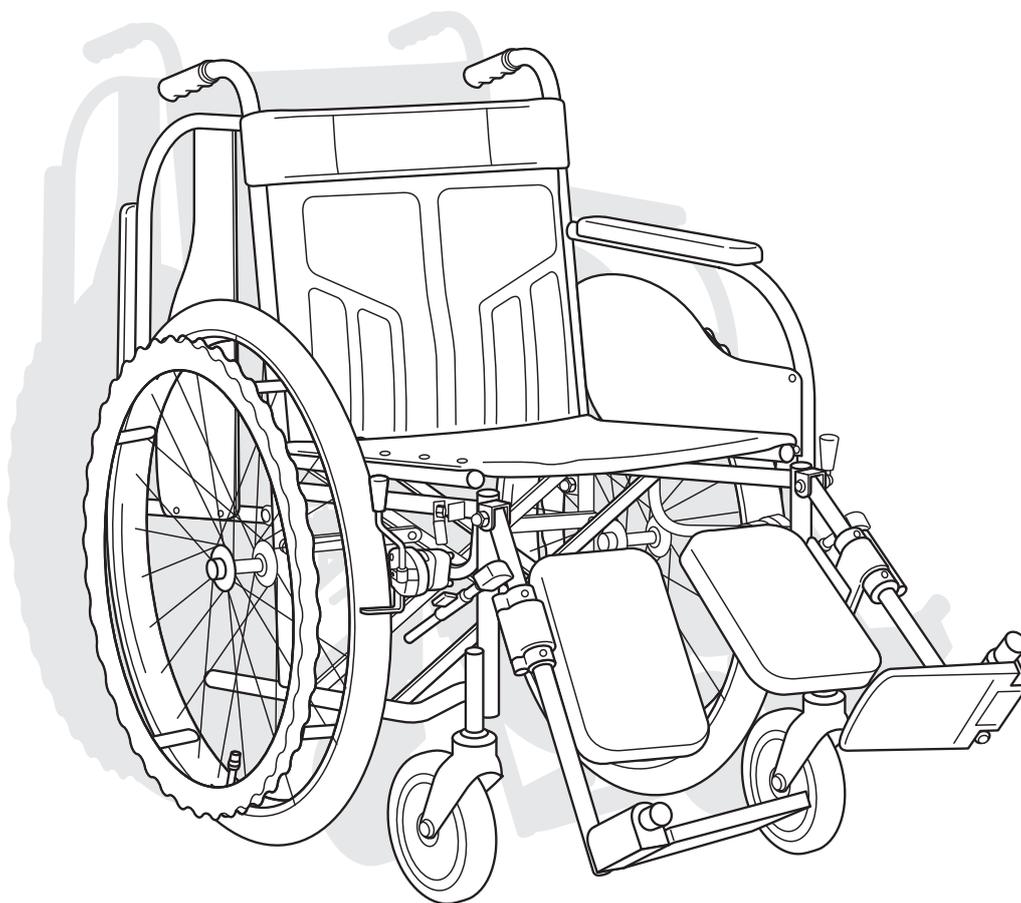


マツナガの車椅子

CM・MWシリーズ

取扱説明書

保存用
保証書付



愛の輪
愛のいす



MATSUNAGA

このたびは、(株)松永製作所製品の車椅子をお買い上げいただき、ありがとうございます。

この取扱説明書には、お客様が安全に正しくご使用していただくために必要な注意事項や正しい使い方が説明してあります。ご使用になる前には、必ずお読みください。

また、保証書が付いておりますので紛失しないように大切に保管してください。

この車椅子は車載を前提に設計されておりません。

この車椅子は車の座席としての強度を考慮しておりません。

座席として使用した場合には車載時の負荷により、車椅子が破損する場合があります。

車載用として設計された車椅子もご用意しておりますので、お問合せください。

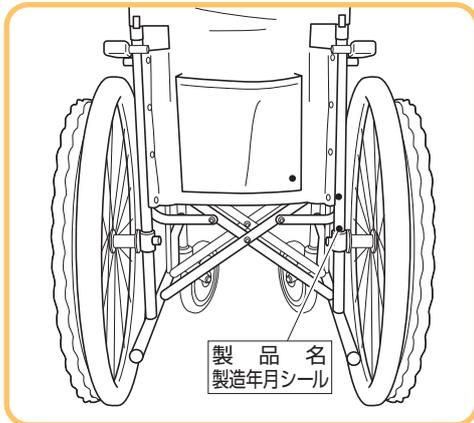
車椅子が、あなたの身体に合わない状態で乗らないでください。

健康をそこなう恐れがあります。そのような場合は、購入されたお店、かかりつけの病院にご相談ください。

購入いただいた製品の機種名をご確認ください。
機種名は、下記位置に表示してあります。



主要寸法は4ページの機種別寸法一覧でご確認ください。
機能は4ページの機種別機能一覧でご確認いただき、10～17ページの各機能の使用方法をお読みください。

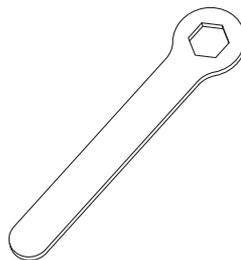


- お買い上げの製品は、改良などにより、この「取扱説明書」の内容と一部異なる場合があります。
- ご不明な点がございましたら、お買い上げの販売店または、直接弊社までお問い合わせください。

付属品

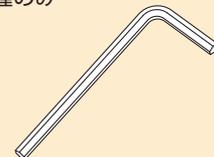


取扱説明書



スパナ
(対辺13mm)

フット・レッグサポート
エレベータリングタイプの
機種のみ



六角レンチ
(対辺4mm)

目次

安全にお使いになるためのご注意	2
機種別寸法一覧・機種別機能一覧	4
各部の名称	5
機能説明	6
車椅子の拡げ方・折りたたみ方	7
車椅子の拡げ方・折りたたみ方	7
リクライニングタイプの拡げ方	8
リクライニングタイプの折りたたみ方	9
安全にお使いになるための使用方法	10
ブレーキの使用方法	10
バックサポートのリクライニング方法	11
アームサポート跳ね上げタイプ	12
アームサポート着脱	13
フット・レッグサポートエレベーター	14
ふくらはぎパッドの調整	14
フット・レッグサポートスイングアウト	16
フット・レッグサポートスイングアウト & エレベーター	16
フットサポートの高さ(長さ)調整	17
車椅子の使用方法	18
乗り方・降り方	18
動かし方	19
介助の仕方	20
外出時の注意	21
ご使用の前に	23
車椅子のオプション	24
安全ベルト・その他	24
もしこんなトラブルが発生したときは	25
車椅子のお手入れの方法	25
空気圧管理不要タイヤメンテナンス方法	26
保管場所	27
保証書	29

安全にお使いになるためのご注意



警告

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が死亡または重傷を負う可能性が想定されることを示します。



注意

この表示を無視して、誤った取り扱いをすると、人が傷害を負う可能性があることおよび物的損害の発生する可能性が想定されることを示しています。

お守りいただく内容の説明



この表示は、してはいけない「**禁止**」内容です。



この表示は、必ずしていただく「**強制**」内容です。



警告

(禁止)



しては
いけない

- タイヤの空気圧が低い状態で、使用しないでください。
ブレーキのロックができなくなり、車椅子が動いたりして、事故の原因となります。
- フットサポートの上に乗って乗り込んだり、降りるとき上に立ち上がらないでください。
車椅子が、バランスを崩し、転倒事故の原因となります。
- 故障、異常のあるときは、使用しないでください。
事故、転倒などによるケガの原因となります。
- 改造しないでください。
改造によって車椅子の部品の破損、脱落などで安全性が低下して事故、転倒の原因となります。
- 車椅子のシートの上で立ち上がらないでください。

(強制)



必ずして
いただく

- 車椅子に乗る・降りる前や、ベッド等への移乗時には、ブレーキをロックしてください。
車椅子が動き、転倒事故の原因となります。
- リクライニングの角度調整をするときは、ブレーキをロックしてください。
車椅子が動いたりして、転倒事故の原因となります。
- リクライニングレバーを左右同時に握りながら角度調整してください。
転倒事故の原因となります。
- 坂道の登り下りのときは、介助者の方が支えて行ってください。
スピードが出たり、バランスが不安定になり、転倒・転落事故の原因となります。
- 道路の通行は、必ず右側を通行してください。(歩道がある場合は歩道を通行してください。)
道路交通法規を守らないと、交通事故の原因となります。
- 側溝の格子蓋や踏み切りなどでご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただいで行ってください。
車輪が溝にはまって転倒事故の原因となります。

注意

(禁止)



しては
いけない

- バックサポートに重いものを引っ掛けないでください。
車椅子が不安定になり、転倒事故の原因となります。
- 車椅子を上げる時に、座パイプの横や下に、手や指を入れないでください。
パイプに手や指を挟んでケガをします。
- リクライニング車椅子の連結バーを外したまま、使用しないでください。
- リクライニング車椅子のヘッドサポートを外したまま、使用しないでください。
- リクライニング車椅子の連結バー・ヘッドサポート部を持って、走行しないでください。
- アームサポートが跳ね上げの場合は、アームサポートを持って、車椅子を持ち上げないでください。
以上のような、使用をされますと転倒・転落事故の原因となり大変危険です。
- スピードが出ている状態で、素手でハンドリムを持って減速しないでください。
摩擦で、手にケガをする恐れがあります。
- 車輪が回転しているときは、スポークに手や指を差し込まないでください。
手や指を挟んで、ケガをする原因となります。
- タイヤを持って車椅子を操作しないでください。ブレーキに手があたり、ケガをする原因となります。
- バックしながら、急停止しないでください。転倒事故の原因となります。
- 火気の近くに置かないでください。タイヤがパンクしたり、シートが燃え火災の原因となります。
- バックサポートパイプのみで、キャスト(前輪)を上げないでください。
バックサポートパイプが曲がったり、折れたりして、転倒事故の原因となります。
- スピードをつけて、段差を乗り越えようとししないでください。
使用者が車椅子から転落して、事故の原因となります。
- 走行中、身体を乗り出さないでください。バランスが不安定になり、転倒・転落事故の原因となります。

(強制)



必ずして
いただく

- 介助者の方は、キャリパーブレーキレバーを両側同時にかけてください。
バランスを崩し、転倒事故の原因となります。
- 車椅子を上げた時、座パイプが受けに収まっているか、確認して座ってください。
パイプが曲がったりして、転落事故及び故障の原因になります。
- リクライニングの連結バーのノブネジは、確実に固定してください。
外れて、転倒・転落事故の原因となります。
- リクライニングのヘッドサポートロックを確実にかけてください。
外れて、転倒・転落事故の原因となります。
- 必ずヘッドサポートを取り付けてご使用ください。パイプ差込口で手や頭にケガをする原因となります。
又、フレーム強度が低下し、破損の原因となります。
- エレベータリングのフットサポートに足が乗った状態で調整する場合は、フットパイプをしっかり
支えて行ってください。ロック解除時に、手をパイプに挟んでケガをする原因となります。
- スイングアウトをもどしたときは、ロックが確実にされているか確認してください。
足を乗せたとき、外れて足をケガする原因となります。
- アームサポート跳ね上げをもどしたときは、ロックレバーのピンが完全にロックされていることを
確認してください。転落事故の原因となります。
- 安全ベルト装着機種は、必ず安全ベルトを締めてください。衝撃などで転落し事故の原因となります。
- 安全ベルトのマジック式は、糸くずや汚れを取り除いてください。
接着力が弱くなり衝撃を受けた時外れ転落事故の原因となります。
- フットサポートが固定されているか、確認してから使用してください。
フットサポートが脱落し事故の原因となります。
- フットサポートの高さは地面より5cm以上でご使用ください。
路面の凹凸や障害物にフットサポートが引っかかり急に車椅子が止まり、転倒事故の原因になります。
- 乗り降り、駐車は平坦な場所で行ってください。
車椅子が動いたりして、バランスを崩し、転倒・転落事故の原因となります。
- 坂道を下るとき介助者の方は、車椅子を後ろ向きでゆっくり確認しながら走行してください。
前向きで下ると、使用者がすり落ちたり、前のめりとなり、転倒事故の原因となります。
- 側溝の格子蓋、踏み切りのレール溝にキャストが落ち込まないように注意してください。
車椅子が急に止まり使用者の身体が前方に傾き、転倒・転落事故の原因となります。

機種別寸法一覧

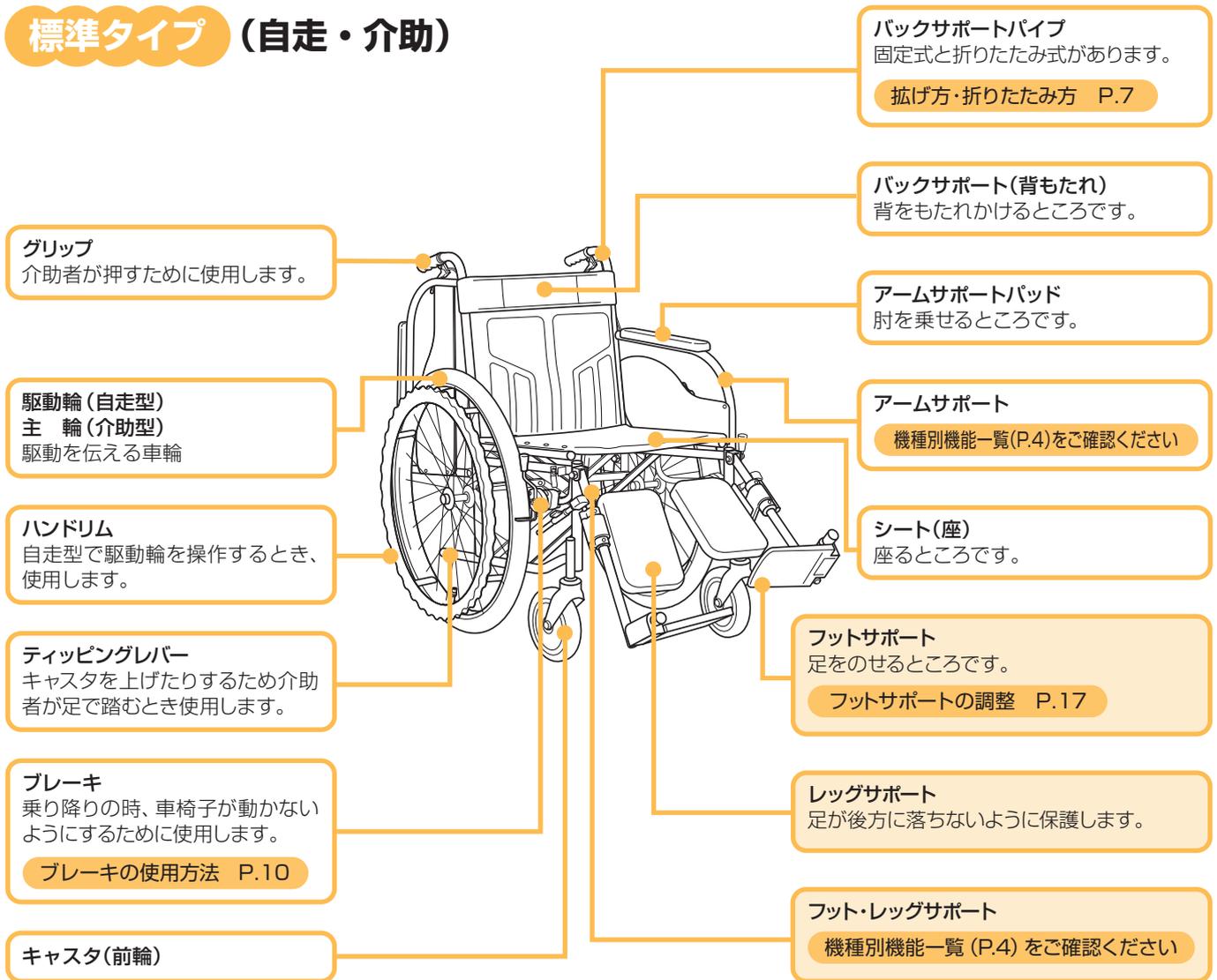
機種	キャスト (インチ)	大車輪 (インチ)	前座高 (m/m)	後座高 (m/m)	全長 (m/m)	全高 (m/m)	全幅 (m/m)	折たたみ幅 (m/m)	重量 (kg)
CM-251HB	7	24	470	440	1025	880	625	330	19.9
CM-261HB	7	16	470	440	980	880	575	275	18.0
CM-251HB-SE	7	24	470	440	1040	880	625	330	21.7
CM-261HB-SE	7	16	470	440	995	880	625	330	19.8
CM-501HB	7	24	470	450	1155	1270	655	335	26.4
CM-541HB	7	16	470	450	1090	1270	585	275	24.5
MW-14HB	7	16	460	435	1065	1270	560	240	18.5

機種別機能一覧

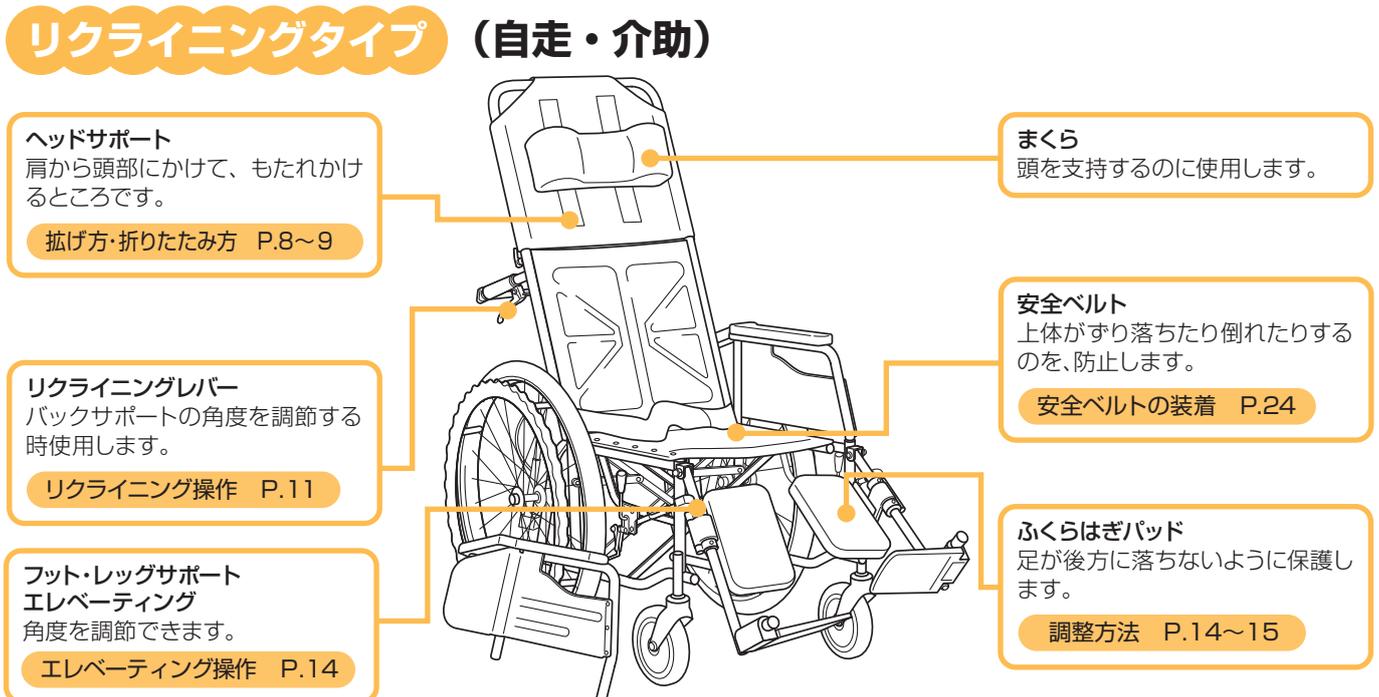
機種	タイプ	バックサポート	アームサポート		フット・レッグサポート		ブレーキ	
			機能	形状	機能	種類	機能	
CM-251HB	自走	固定	跳ね上げ		スイングアウト	ミニタックル		
CM-261HB	介助	固定	跳ね上げ		スイングアウト	ミニタックル		
CM-251HB-SE	自走	固定	跳ね上げ		スイングアウト&エレベーターティング	ミニタックル		
CM-261HB-SE	介助	固定	跳ね上げ		スイングアウト&エレベーターティング	ミニタックル		
CM-501HB	自走	リクライニング	着脱	後方延長	エレベーターティング	鉄タックル(平型)		
CM-541HB	介助	リクライニング	着脱	後方延長	エレベーターティング	鉄タックル(平型)		
MW-14HB	介助	リクライニング	着脱	後方延長	エレベーターティング	ミニFBタックル		

各部の名称

標準タイプ (自走・介助)



リクライニングタイプ (自走・介助)

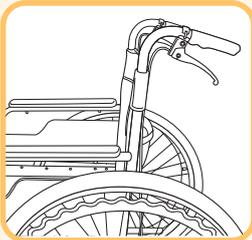


機能説明

〈バックサポート〉

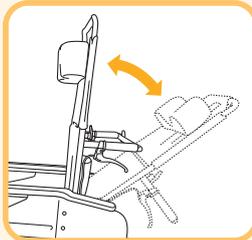
固定

背もたれパイプが固定です。耐久性に優れています。



リクライニング

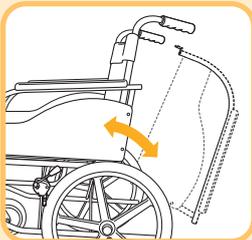
レバー操作によって、背もたれの角度が調節できます。



〈アームサポート〉

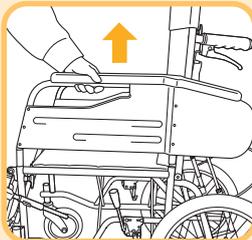
(新) 跳ね上げ

簡単なワンタッチ操作で肘掛けの跳ね上げができます。ベッド等の移乗時に大変便利です。介助軽減にも役立ちます。



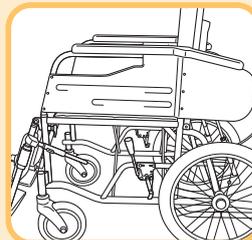
着脱

肘掛けが完全に取り外し可能です。介助軽減にも役立ちます。



後方延長

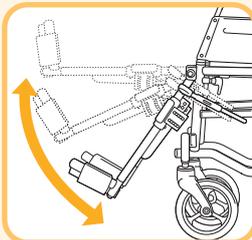
肘掛けが後方に延長され、リクライニングの時に腕が肘掛けと背もたれの間で落ちたり、挟まれたりすることがありません。



〈フット・レッグサポート〉

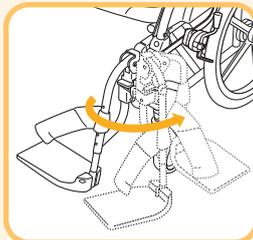
エレベーターング

フット・レッグサポート部の角度が調節可能です。足が硬直、変型している方に最適です。ふくらはぎパッドの位置調節が可能です。



スイングアウト

フット・レッグサポート部が開閉でき着脱可能です。ベッド、トイレ等への接近が容易です。片手片足操作にも適しています。樹脂製になり、操作もより簡単です。

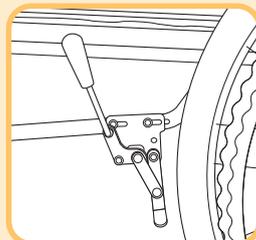


〈ブレーキ〉

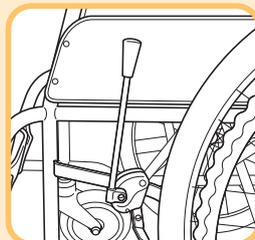
ミニタックル



鉄タックル(平型)



ミニFBタックル

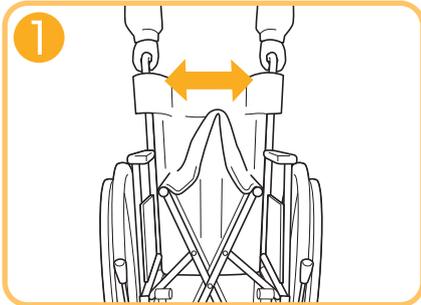


車椅子が動かないようにする時に使用します。

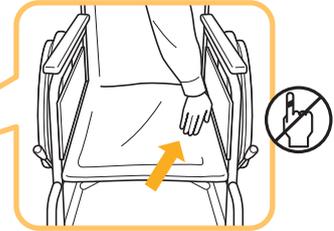
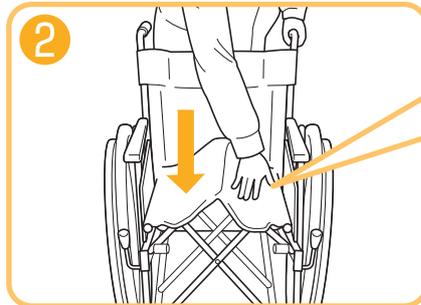
車椅子の広げ方・折りたたみ方

車椅子の広げ方

① 車椅子の後方に立ち、左右のグリップを持って両側に広げます。



② 片側のグリップを手で持ち、シートを手で下に押し下げると、シートが広がります。



※手・指に注意

⚠ 注意

● 車椅子を広げる時に、座パイプの横や下に、手や指を入れないでください。
(パイプに手や指を挟んでケガをします。)

してはいけない

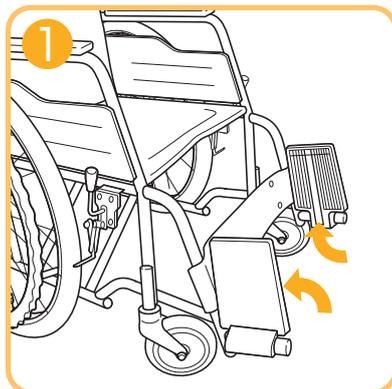
⚠ 注意

● 車椅子を広げた時、座パイプが、受けに収まっているか、確認して座ってください。
(パイプが曲がったりして、転落事故及び故障の原因になります。)

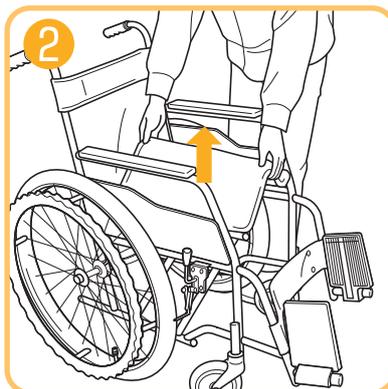
していただく

車椅子の折りたたみ方

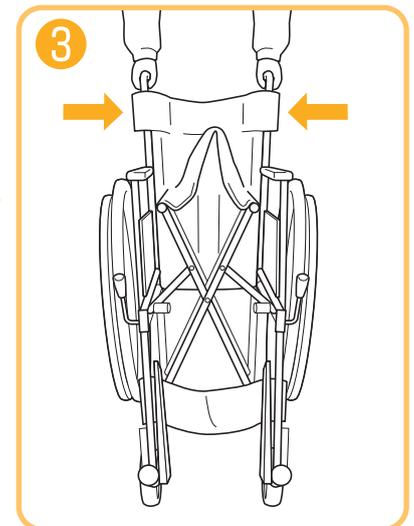
① フットサポートを矢印方向に回転させて跳ね上げる。



② シートの前方と後方の中央を同時に持ち上げる。

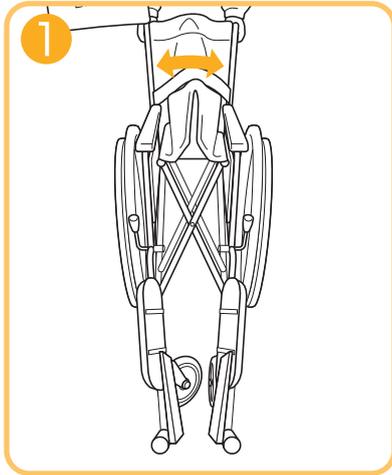


③ 左右のグリップを持ち内側にたたむ。

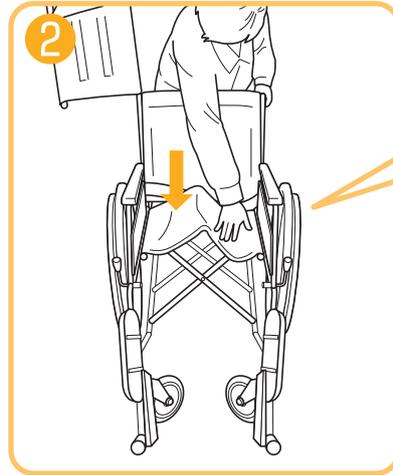


リクライニングタイプの拡げ方

① 車椅子の後方に立ち、左右のグリップを持って両側に拡げる。

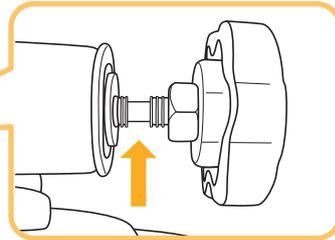
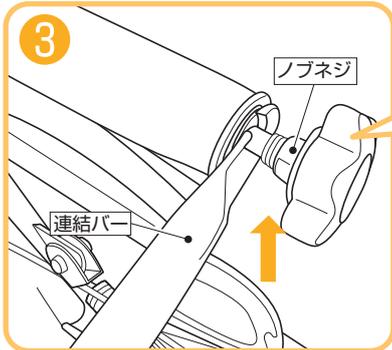


② 片側のグリップを手で持ちシートを手で下に押し下げるとシートが拡がります。



※手・指に注意

③ 連結バーをノブネジで固定する。



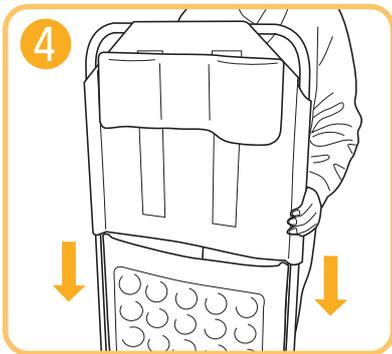
ノブネジの細い部分に連結バーをはめてから、ネジを締めてください。

⚠ 注意

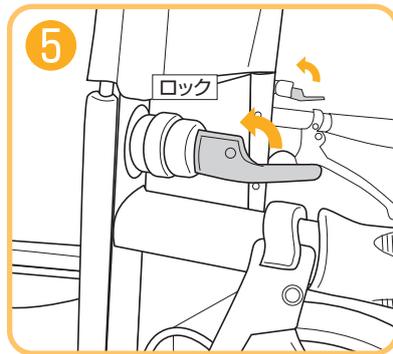
●リクライニングの連結バーのノブネジは、確実に固定してください。
(外れて、転倒・転落事故の原因となります。)

※ご注意ください

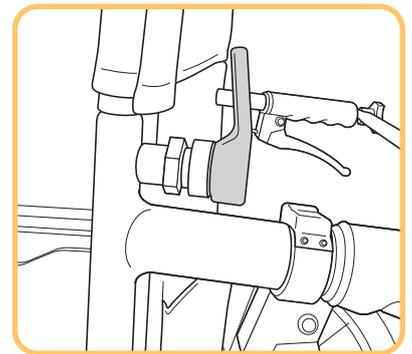
④ ヘッドサポートを取り付ける。



⑤ ロックレバーのロックを確認する。



(ロックした状態)



⚠ 注意

●ヘッドサポートのロックを確実にかけてください。
(外れて、転倒・転落事故の原因となります。)

※ご注意ください

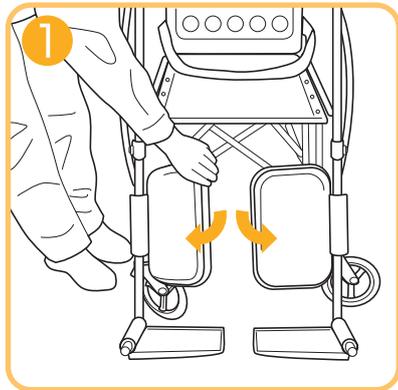
⚠ 注意

●必ずヘッドサポートを取り付けてご使用ください。
(パイプ差込口で手や頭にケガをする原因となります。又、フレーム強度が低下し、破損の原因となります。)

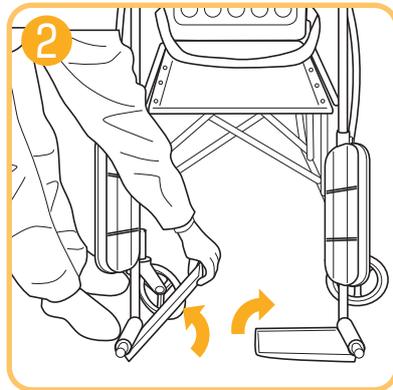
※ご注意ください

リクライニングタイプの折りたたみ方

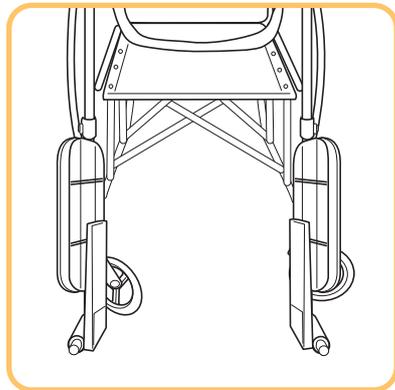
① ふくらはぎパッドを跳ね上げます。



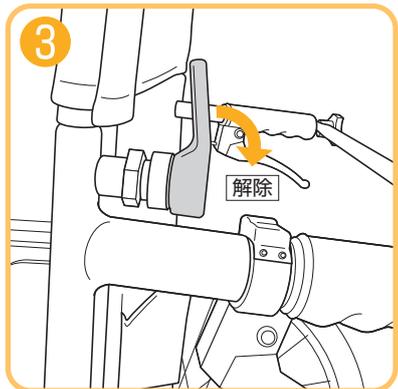
② フットサポートを跳ね上げます。



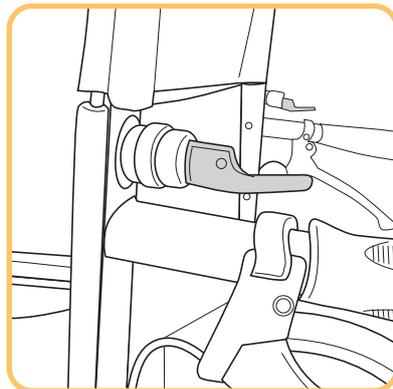
(跳ね上げた状態)



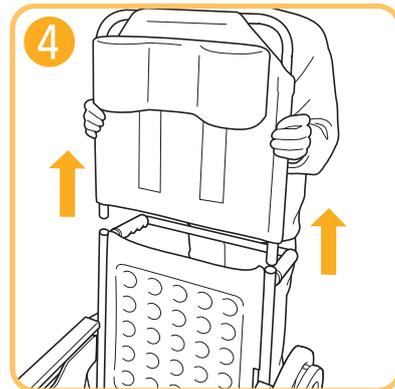
③ ロックレバーを倒す。(左右共)



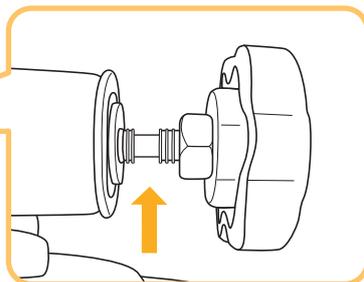
(解除した状態)



④ ヘッドサポートを外す。



⑤ ノブネジを緩め、連結バーを外す。



ノブネジの細い部分に合わせて連結バーを外してください。

⑥ シートの前方と後方の中央を同時に持ち上げる。



! 注意

●リクライニングの連結バーが車輪(スポーク)にあたらないようにしてください。

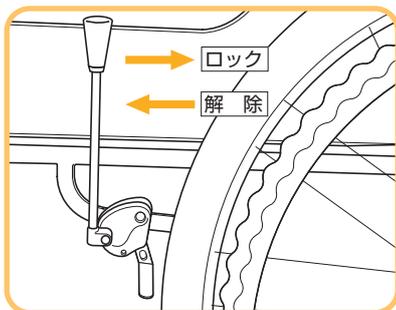
してはいけない

安全にお使いになるための使用方法

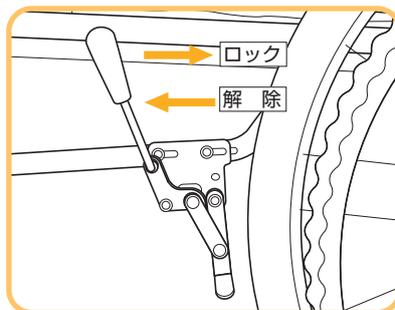
ブレーキの使用方法

- ブレーキレバーを後方に引くとロックします。
- ロックした方向と反対に引くと解除します。

ミニタックル

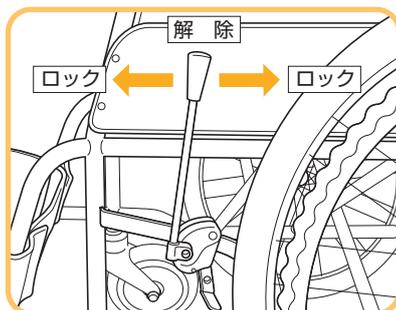


鉄タックル(平型)



- ブレーキレバーを前方・後方に引くとロックします。
- ロックした方向と反対に引くと解除します。

ミニFBタックル



警告

- タイヤの空気圧が低い状態で、使用しないでください。(P.23 で使用の前に参照)
(ブレーキのロックができなくなり、車椅子が動いたりして、事故の原因になります。)

してはいけない

警告

- 車椅子に乗る・降りる前や、ベッドへの移乗時には、必ずブレーキをロックしてください。
(車椅子が動き、転倒事故の原因となります。)

していただく

バックサポートのリクライニング方法

●バックサポートの角度を調整することにより、身体状態に応じて合わせることができます。

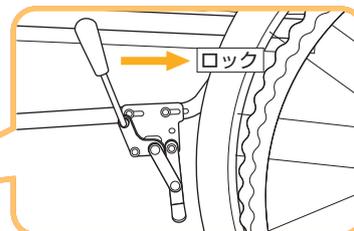
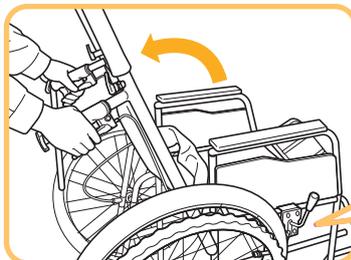
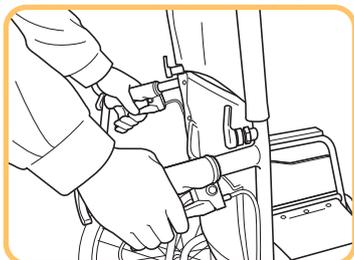
レバーを両側握る。

※オプションでドラムブレーキ付車椅子の場合は、レバーの形状が異なります。

背もたれ角度を調整し、位置が決まったら、レバーを離す。

【注意】

操作はブレーキをロックして行ってください。



警告

- リクライニングの角度調整をする時は、ブレーキをロックしてください。(車椅子が動いたりして、転倒事故の原因となります。)

していただく

警告

- リクライニングレバーを左右同時に握りながら角度調整してください。(転倒・転落事故の原因となります。)

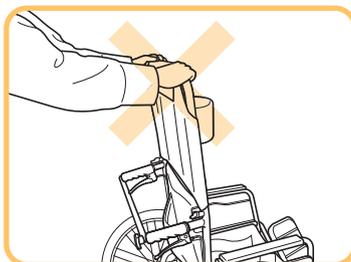
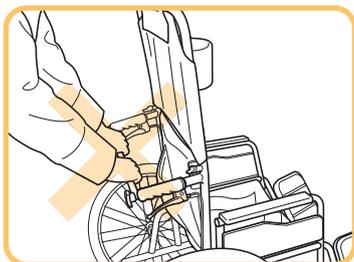
していただく



注意

- リクライニングの連結バーを外したまま、使用しないでください。
- リクライニングのヘッドサポートを外したまま、使用しないでください。(転倒・転落事故の原因となり大変危険です。)

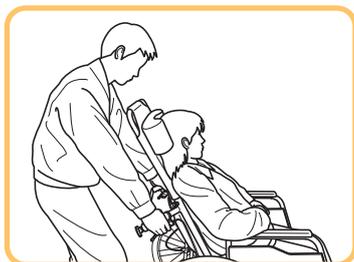
してはいけない



注意

- リクライニング車椅子の連結バー・ヘッドサポート部を持って、走行しないでください。(外れたりして、転倒事故の原因となります。)

してはいけない

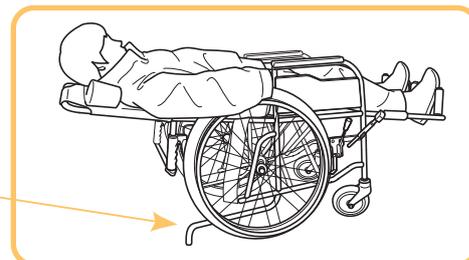


注意

- 車椅子に使用者が乗っている状態で、リクライニング操作する時は、使用者の体重がバックサポートにかかっていますので、介助者はしっかり支えて行ってください。(操作したときに、急にバックサポートが倒れパイプで顔などを打ってケガをする恐れがあります。)

していただく

- フラット状態で使用する場合は、バランスを崩し後方に転倒する恐れがあります。危険防止のために、転倒防止バー(オプション)をご使用ください。



注意

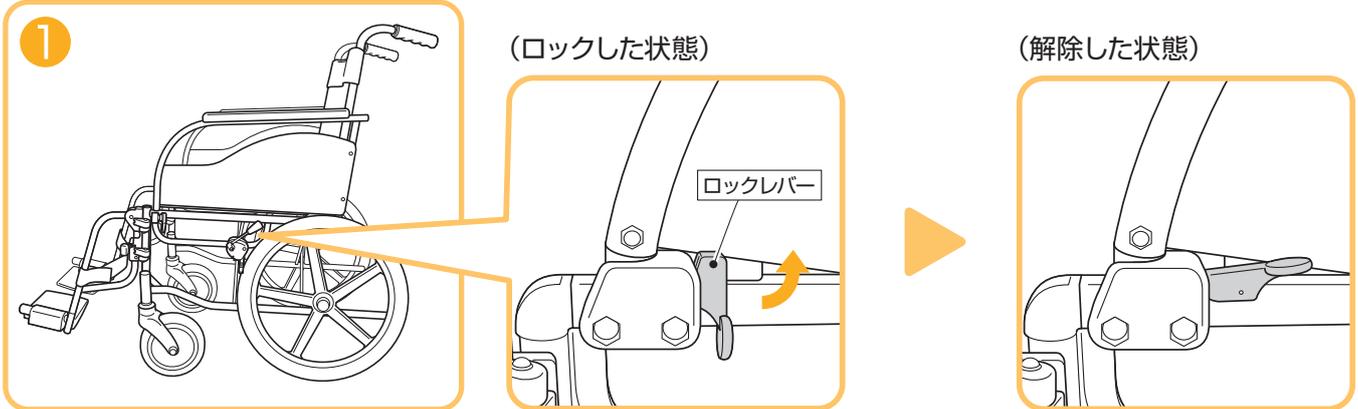
- 介助者の方は、人が乗った状態でリクライニングしたまま、放置しないでください。(バランスを崩し、転倒事故の原因となります。)

してはいけない

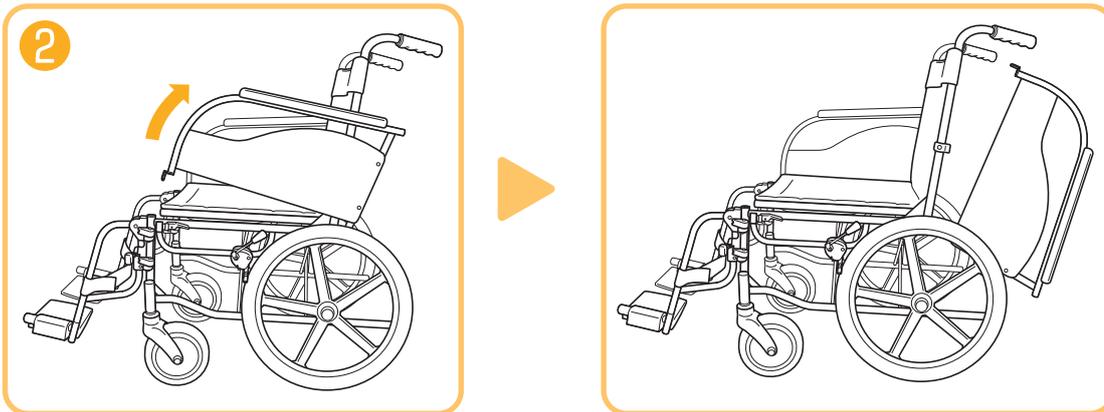
アームサポート跳ね上げタイプ

●両側のアームサポートが後方に跳ね上がりますので、横からの乗り移りがしやすくなります。

① ロックレバーを矢印方向に起こす。



② アームサポートを後方に跳ね上げる。



⚠ 注意

- アームサポート跳ね上げをもどしたときは、ロックレバーのピンが完全にロックされていることを確認してください。
(転落事故の原因となります。)

していただく

⚠ 注意

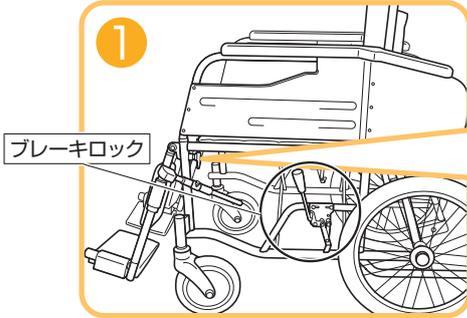
- アームサポートを持って、車椅子を持ち上げないでください。
(ケガ、転倒・転落等の事故原因となります。)

してはいけない

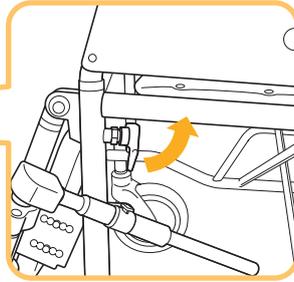
アームサポート着脱

●両側のアームサポートが取り外しできるので、横からの乗り移りがしやすくなります。

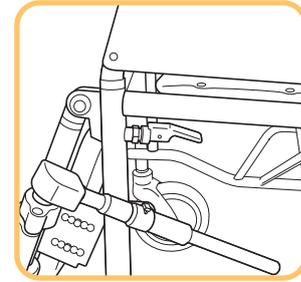
① ロックレバーを矢印方向に起こす。



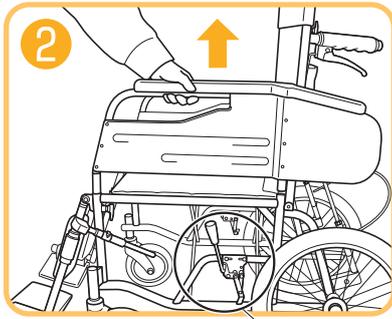
(ロックした状態)



(解除した状態)



② 肘掛けの中央部分を真上に持ち上げて外します。



●取り付けは、取り外しと逆手順で行ってください。 ※前側のパイプから入れると、取り付けが簡単です。

! 注意

●アームサポートを取り付けたときは、ロックが確実にされていることを確認してください。
(転落事故の原因となります。)

していただく

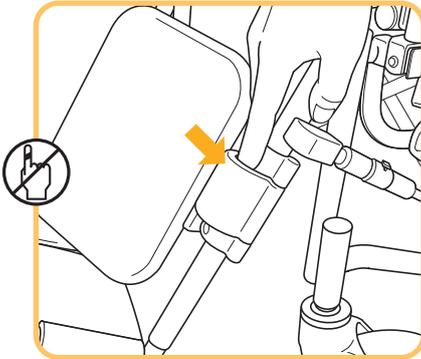
! 注意

●アームサポートを持って、車椅子を持ち上げないでください。
(ケガ、転倒・転落等の事故原因となります。)

してはいけない

フット・レッグサポートエレベータィング

- 使用者の身体状態に応じて、角度を調整することができます。
また、ふくらはぎパッドの位置(角度)を変更することができます。



※指に注意

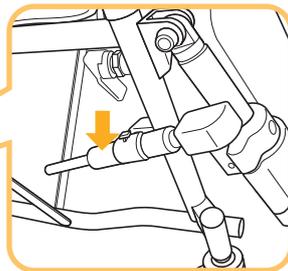
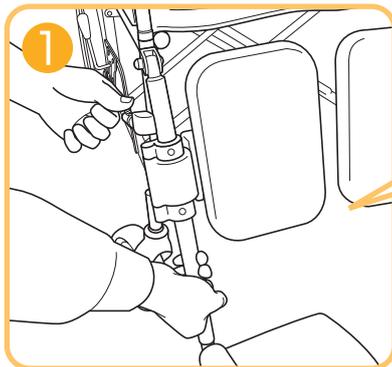
⚠ 注意

- ふくらはぎパッドを回転させたときに、手・指をはさまないように注意してください。

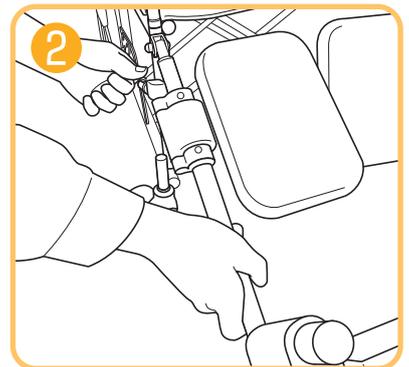
していただく

足角度調整

- ① 操作する側のフットパイプを持ちながら、ロックレバーを押してください。



- ② ロックレバーは押したまま、フットパイプを上げ(下げ) 適当な位置でロックレバーを離すと固定されます。



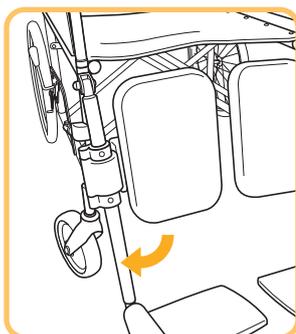
⚠ 注意

- エレベータィングのフットサポートに足が乗ったままの状態では操作する場合は、フット・レッグサポートパイプをしっかり支えて行ってください。(ロックを解除した時に、手をパイプに挟んでケガをする原因となります。)
- 操作するときにメカロックの軸部に触れないでください。

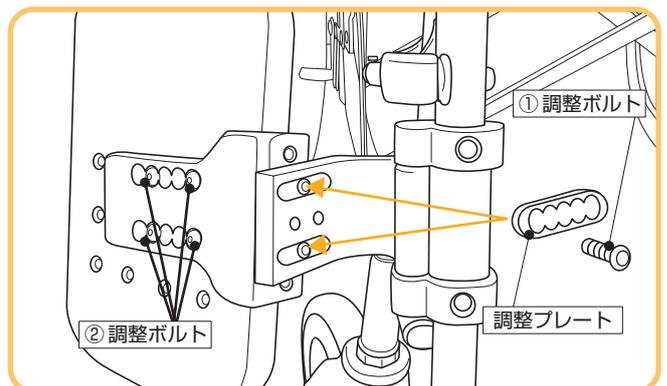
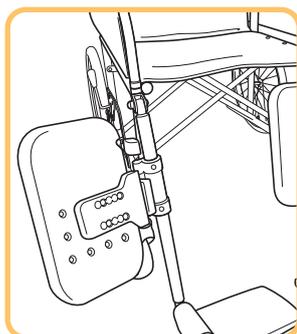
してはいけない

ふくらはぎパッドの調整

- ふくらはぎパッドを上下3段階、左右2段階、前後7段階に調整することができます。
また、角度も-10,0,+10度で変更できます。



ふくらはぎパッドを回転させてください。

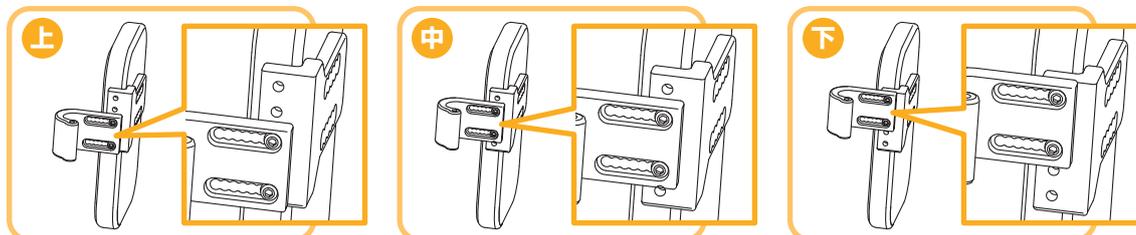


※適正トルク6Nm

●下記のそれぞれの調整を組み合わせ、最適な位置に設定してください。

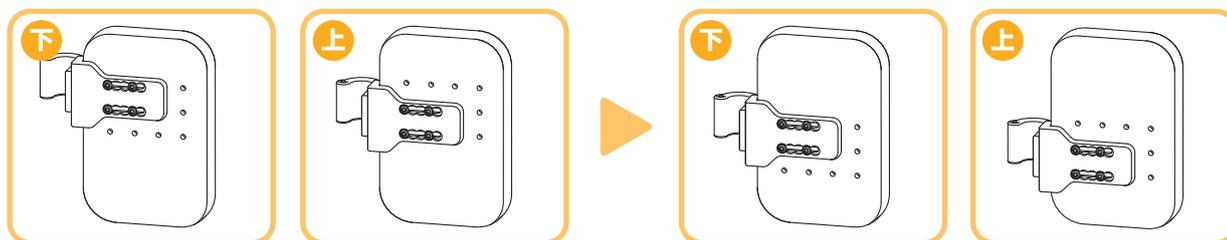
基本的な上下調整

①の調整ボルトを取り外します。このとき調整プレートをなくさないようにしてください。下図のように3段階に調整ができます。



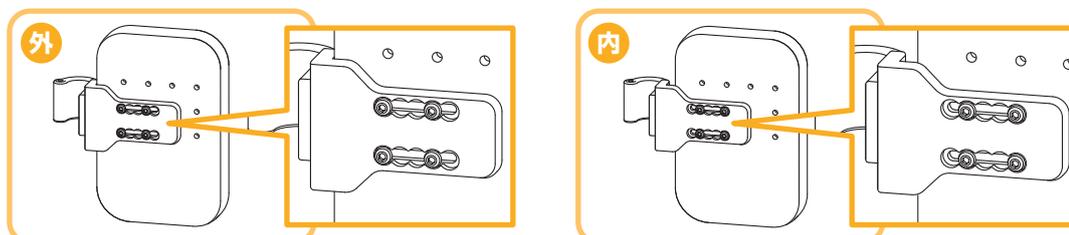
さらに上下調整する方法

②の調整ボルトを取り外します。下図のように2段階に調整ができます。さらにパッドを上下入れかえると、調整範囲が広がります。



左右調整

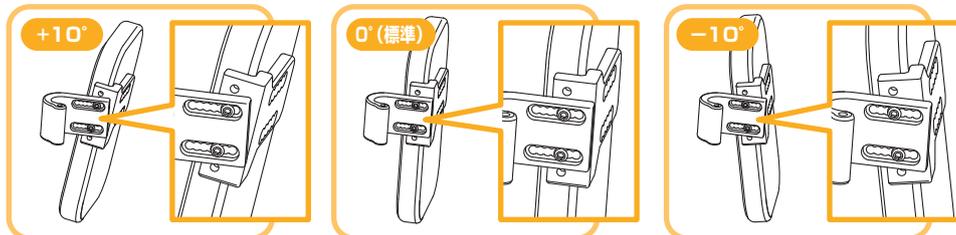
②の調整ボルトを取り外します。下図のように2段階に調整ができます。



※適正トルク
6Nm

角度調整

①の調整ボルトを取り外します。このとき調整プレートをなくさないようにしてください。下図のようにボルトの取り付け位置を上下1つずらすと角度がつけられます。



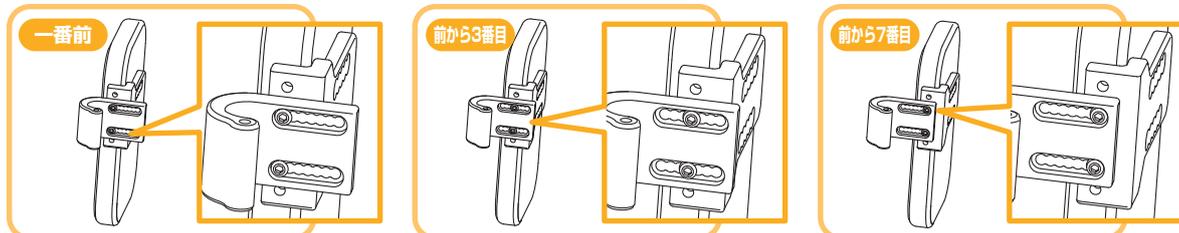
⚠ 注意

●①②のボルトは必ず
しっかりと締めてください。
(ふくらはぎパッドが外れ、
ケガをする恐れがあります。)

していただく

前後調整

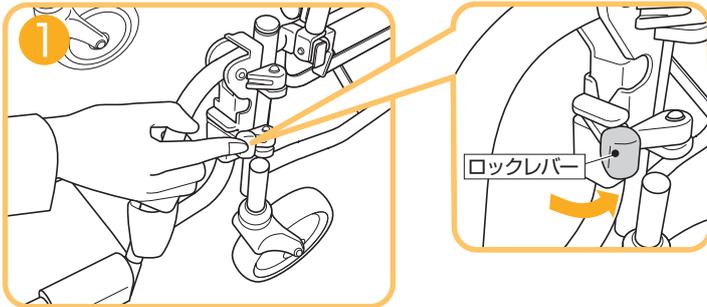
①の調整ボルトを取り外します。このとき調整プレートをなくさないようにしてください。7段階に調整ができます。



フット・レッグサポートスイングアウト

- フット・レッグサポートをスイングアウト(外開き)したり、取り外すことによりトイレ・ベッド等への乗り移りがしやすくなります。介助の場合には、足元が広くなり、移乗動作が楽に行えます。また片足こぎ操作する時には、取り外すことにより足元が広がります。

①ロックレバーを押し、ロックを解除します。

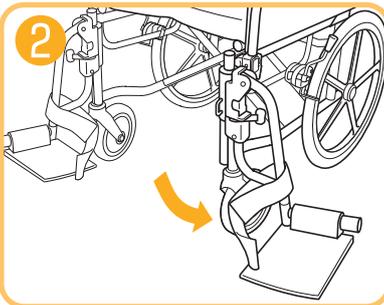


⚠ 注意

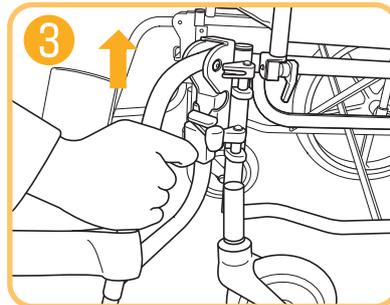
- スイングアウトをもどしたときは、ロックが確実にされているか確認してください。(足を乗せたとき、外れて足をケガする原因となります。)

していただく

②フット・レッグサポートを開くように外側に回転させます。



③フット・レッグサポートを取り外すときは、外側に回転した状態から上に持ち上げてください。



⚠ 注意

- スイングアウトや取り外し・取り付け操作時に、手を挟まないように注意してください。

していただく

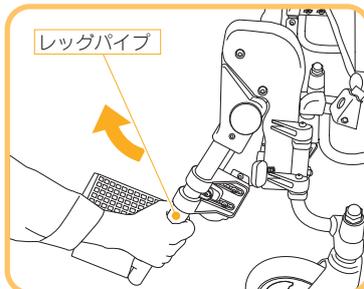
フット・レッグサポート スイングアウト&エレベーターティング

- 使用者の身体状況に応じて、フット・レッグサポートをエレベーターティング(上下方向への角度調整)することができます。また、スイングアウトも可能です。

エレベーターティングの操作方法(足角度の調整方法)

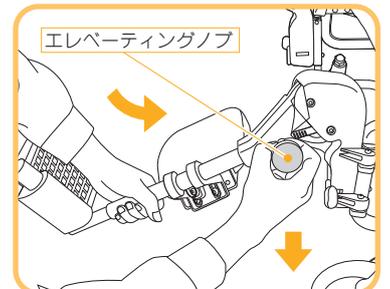
上げる場合

レッグパイプを持ち、そのまま引き上げます。適当な位置になったら少し下げ、ロックされていることを確認して、手を離してください。



下げる場合

レッグパイプを片手で持ち、もう一方の手でエレベーターティングノブを手前へ引きます。(荷重で急激に下がらないようご注意ください。) 適当な位置になったらエレベーターティングノブを離し、少しレッグパイプを下げ、ロックされていることを確認して、手を離してください。

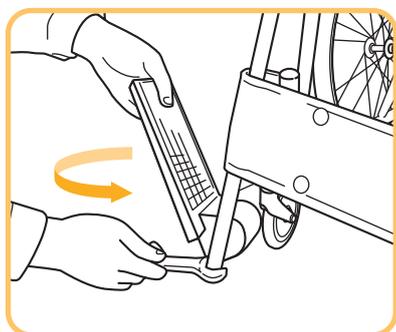


⚠ 注意

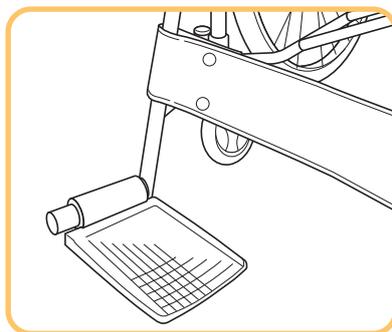
- ユニット本体と、エレベーターティング角度変更部の間で手・指等を挟まないようにしてください。必ずレッグパイプを持ち、支えながら操作してください。特に、使用者の足を乗せたままの状態で行うときは注意して操作してください。

していただく

- お買い上げ時(梱包時)にはフットサポートが収納されていますので、使用する前に、前方に出してください。



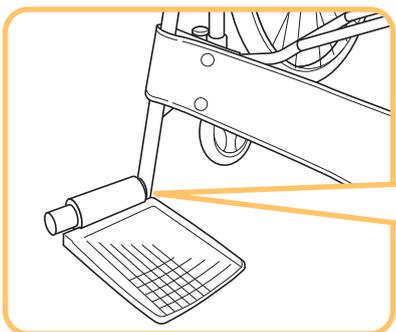
フットサポートを付属品のスパナにて、先端ボルトを少し動くところまで緩める。



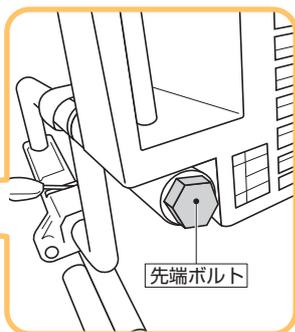
フットサポートを回転し、高さ調整を行い先端ボルトを完全に締める。

※適正トルク
20Nm

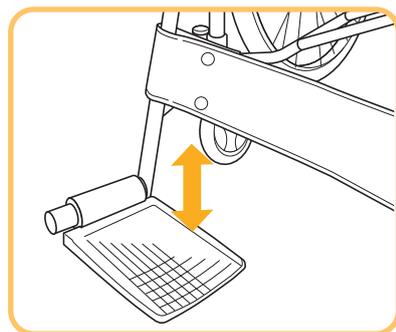
フットサポートの高さ(長さ)調整



フットサポートを少し上げ、付属品のスパナで先端ボルトを少し動くところまで緩める。



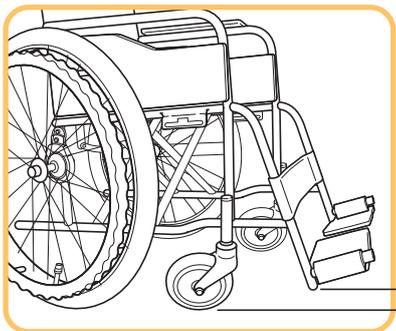
〈フットサポート裏側から見た図〉



高さを調整し、先端ボルトを完全に締める。

注意 ●フットサポートが固定されているか、確認してから使用してください。
(フットサポートが脱落し事故の原因になります。)

していただく



注意 ●フットサポートの高さは地面より5cm以上で
ご使用ください。
(路面の凹凸や障害物にフットサポートが引っかかり
急に車椅子が止まり、転倒の事故の原因になります。)

していただく

↑ 5cm以上

車椅子の使用法

乗り方・降り方



警告

●車椅子に乗る・降りる前や、ベッドへの移乗時には、必ずブレーキをロックしてください。
(車椅子が動き、転倒事故の原因となります。)

していただく



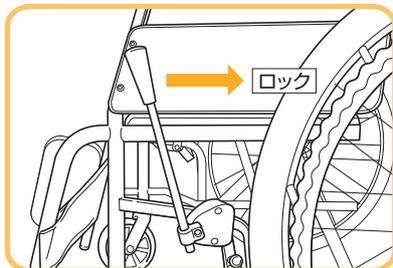
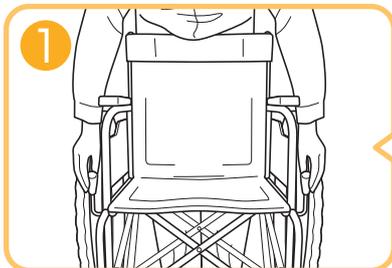
注意

●車椅子の、乗り降りときは、路面の平坦な場所で行ってください。
(車椅子が動き、バランスを崩し、転倒・転落事故の原因となります。)

していただく

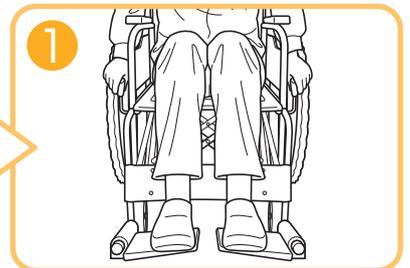
乗る時

①ブレーキを両側ロックする。

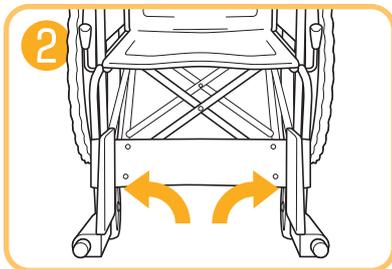


降りる時

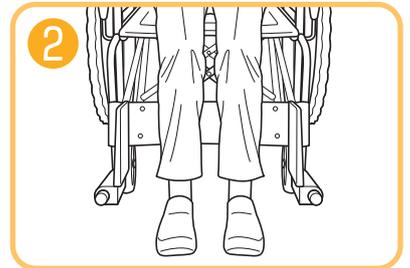
①ブレーキを両側ロックする。



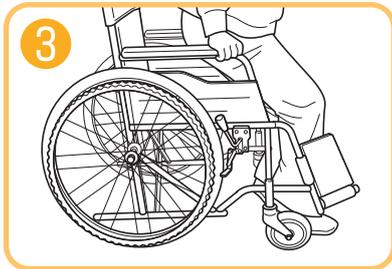
②フットサポートを両側跳ね上げる。



②フットサポートを跳ね上げ、足を下ろす。



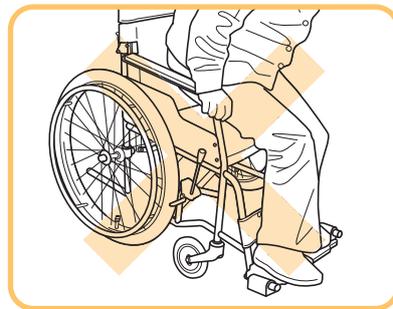
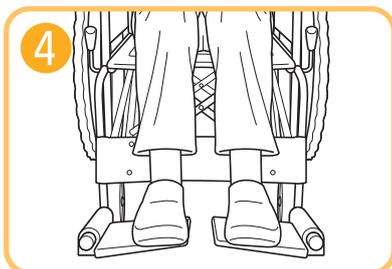
③両手で、アームサポートを持ちゆっくり座り込む。



③両手で、アームサポートを持ちゆっくり立ち上がる。



④フットサポートに足を乗せる。



警告

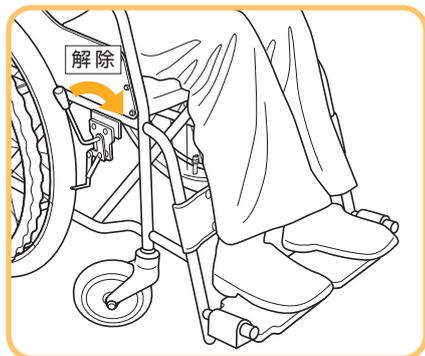
●フットサポートの上に乗って、乗り込んだり、降りるとき上に立ち上がらないでください。
(車椅子が、バランスを崩し、転倒事故の原因となります。)

してはいけない

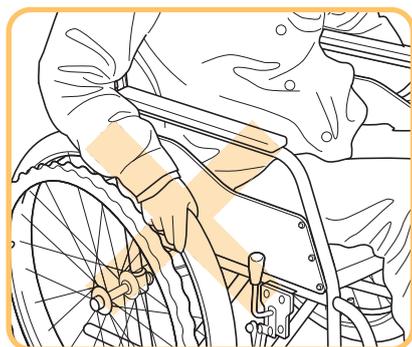
動かし方

(自走用車椅子の場合)

ブレーキロックを解除する。



ハンドリムを握り車輪を
回転させ移動させる。



注意

- タイヤを持って車椅子を操作しないでください。
(ブレーキに手があたり、ケガをする原因となります。)

してはいけない



注意

- スピードが出ている状態で、素手でハンドリムを持って減速しないでください。
(摩擦で、手にケガをする恐れがあります。
そのようなご使用をされる場合は、車椅子用手袋
〈オプション仕様〉をご使用ください。)

してはいけない



注意

- 走行中、身体を乗り出さないでください。
(バランスが不安定になり、転倒・転落事故の
原因となります。)

してはいけない



注意

- 車輪が回転しているときは、スポークに手や指を
差し込まないでください。
(手や指を挟んで、ケガをする原因となります。)

してはいけない

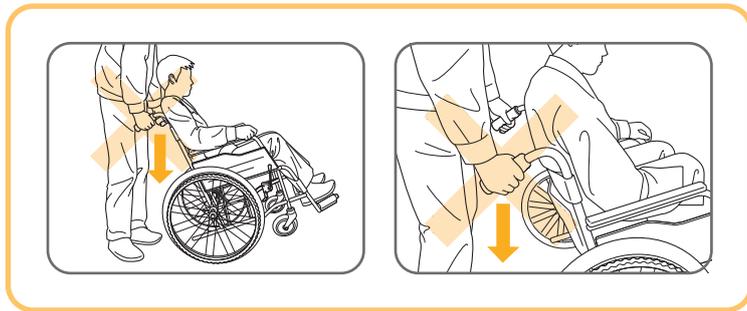
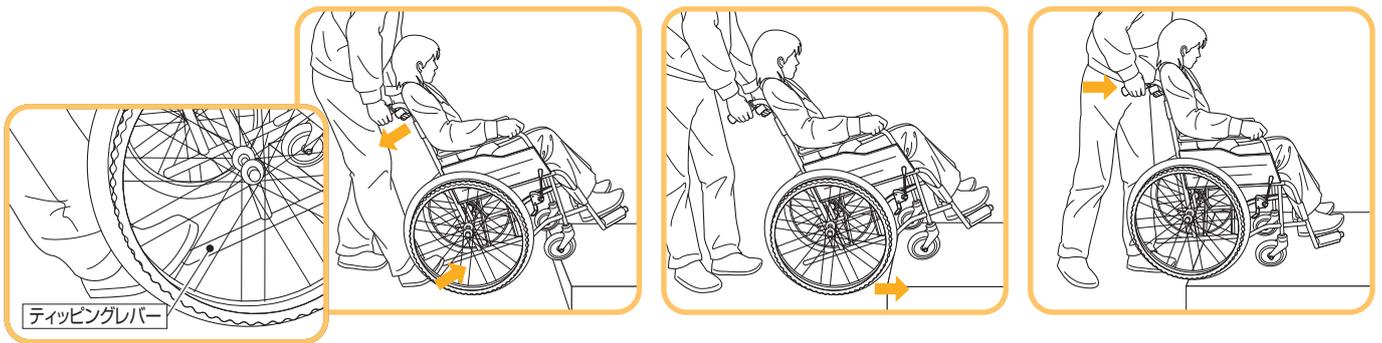
※このような場合にはオプションのスポークカバーの
使用をおすすめします。

介助の仕方

次のような使用場所や環境では、危険が伴う場合がありますので、必ず介助者の方が付き添ってください。介助者が付き添っていない場合は周りの人に介助をお願いしてください。

- ・坂道
- ・踏切の横断
- ・側溝の格子蓋の横断
- ・悪路
- ・乗り物への乗車、降車
- ・段差乗り越え
- ・傾斜している路面

介助者の方は、段差を乗り越える場合は、ティッピングレバーを斜め前に踏みながらグリップを手前に引きキャスト(前輪)を上げ、前輪を段差に乗せてから、後輪を段差に当て、押しながら乗り越えてください。



⚠ 注意

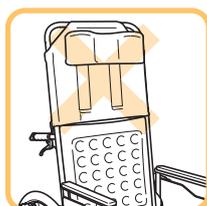
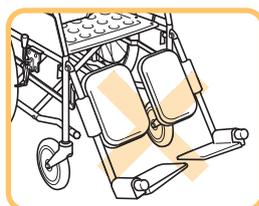
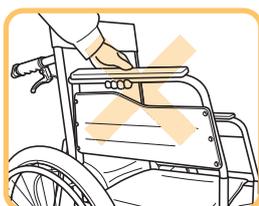
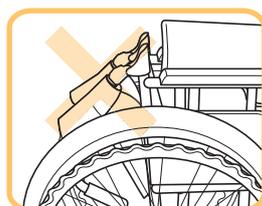
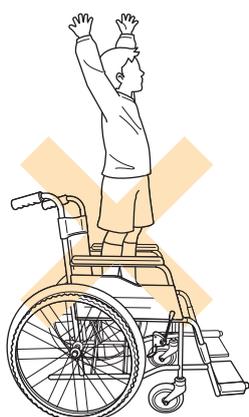
- グリップのみで、キャスト(前輪)を上げないでください。
(バックサポートパイプが曲がったり、折れたりして、転倒して事故の原因となります。)

⚠ 警告

- スピードをつけて、段差を乗り越えようとししないでください。
(使用者が車椅子から転落して、事故の原因となります。)

車椅子を持ち上げようとして次のような箇所は、持たないでください。

- ・アームサポートが、跳ね上げ式・着脱式・着脱&横開き式のアームサポート部
- ・フット・レッグサポートが、エレベーター式、スイングアウト式部
- ・バックサポートがリクライニング式のバックサポートパイプ部



警告

- 車椅子のシートの上で立ち上がらないでください。
(転倒事故の原因となります。)

してはいけない

外出時の注意

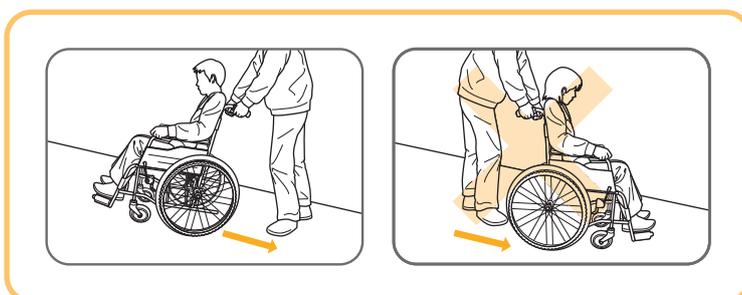
介助者援助をお願いしてください。

坂道の登り下りでご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただいで行ってください。

登り坂



下り坂

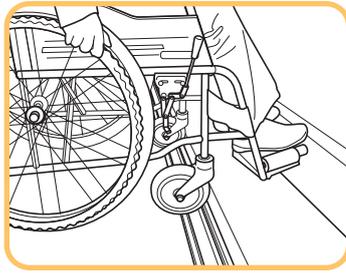
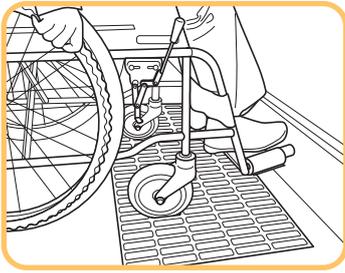


注意

- 坂道を下るとき介助者の方は、車椅子を後ろ向きでゆっくり確認しながら走行してください。
(前向きで下ると、使用者がずり落ちたり、前のめりとなり、転倒事故の原因となります。)

していただく

介助者援助をお願いしてください。



警告

- 側溝の格子蓋や踏み切りなどでご使用される場合は、必ず介助者の方に支えていただいで行ってください。
(車輪が溝にはまって転倒事故の原因となります。)

していただく

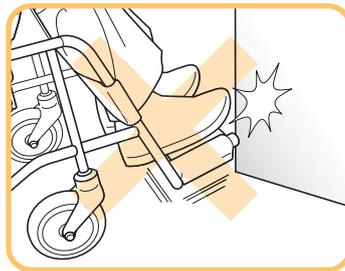


注意

- 側溝の格子蓋、踏み切りのレール溝にキャスト(前輪)が落ち込まないように注意してください。
(車椅子が急に止まり使用者の身体が前方に傾き、転倒・転落事故の原因となります。)

していただく

【介助者の方へ】



注意

- 移動中、つま先が障害物に当たらないように、確認して走行してください。

していただく



注意

- フットサポートに、足が乗っているか確認して走行してください。

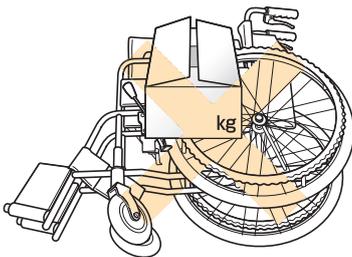
していただく



注意

- 車椅子を、横向きに倒して上に物を置かないでください。
(重みで車輪フレームが、曲がったりして故障の原因になります。)

してはいけない



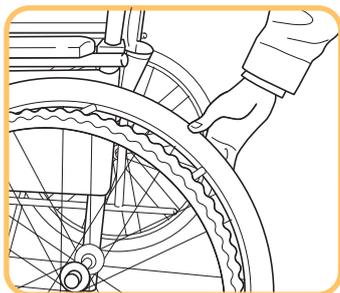
■階段などで、使用者が乗ったままの状態、介助者に吊り上げてもらう場合

ベースパイプ・バックサポートの固定されている箇所を持って、4~5人で支えてもらってください。

ご使用前に

■ご使用前に、安全にご使用していただくため、次の確認をお願いします。

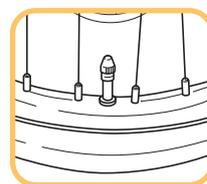
- ・タイヤの磨耗・亀裂はないか。
- ・タイヤの空気圧は、適正か。
- ・ブレーキに異常はないか。
- ・ブレーキをロックした時、駆動輪・主輪が回転しないか。



タイヤを親指で押し、容易にへこむ場合は、エアーを自転車用空気入れで補充してください。
(最適空気圧:350kPa)



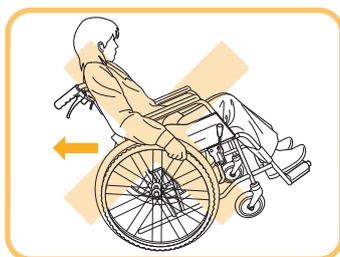
タイヤの空気バルブのネジが緩んでいないか確認してください。



警告

- タイヤの空気圧が低い状態で、使用しないでください。
(ブレーキのロックができなくなり、車椅子が動いたりして、事故の原因となります。また、タイヤのパンクの原因となります。)

してはいけない



注意

- バックしながら急停車しないでください。
(転倒事故の原因となります。)

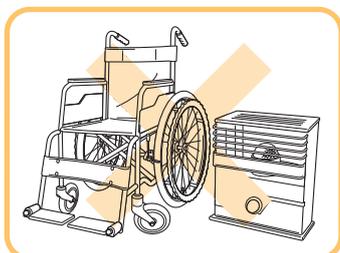
してはいけない



注意

- 凹凸のある路面では、前かがみ姿勢で使用しないでください。
(バランスを崩し、前に転倒して事故の原因となります。)

してはいけない



注意

- 火気の近くに置かないでください。
(タイヤがパンクしたり、シートが燃え火災の原因となります。)

してはいけない

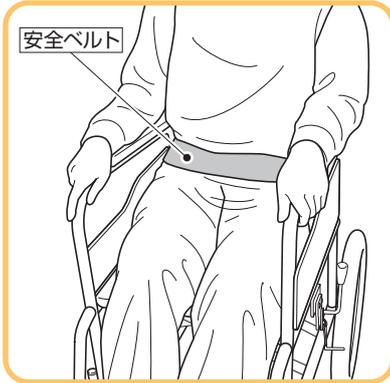
車椅子のオプション

車椅子をより使いやすくするために、いろいろなオプションが用意してあります。
(車椅子により取り付けできない場合がございます。販売店、または松永製作所までご相談ください。)

安全ベルト

CM-501HB,541HB,MW-14HBは標準装備です。

●使用者が、車椅子から転落したり、ずり落ちるのを保護します。



⚠ 注意

●安全ベルト装着機種は、必ずシートベルトを締めてください。
(衝撃などで転落し事故の原因となります。)

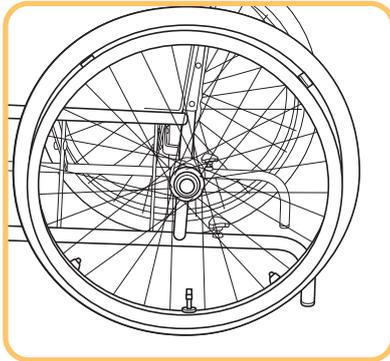
していただく

⚠ 注意

●安全ベルトのマジック式は、糸くずや汚れを取り除いてください。
(接着力が弱くなり、衝撃を受けた時外れ転落事故原因となります。)

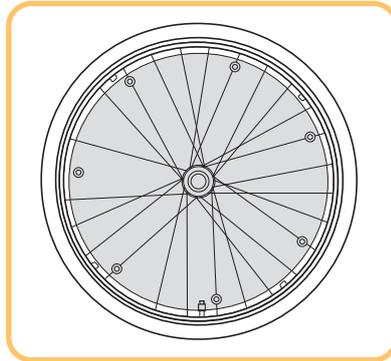
していただく

転倒防止



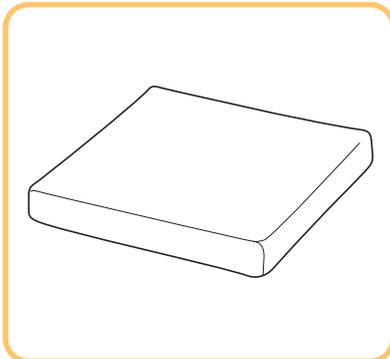
車椅子が後方へ倒れるのを防止します。

スポークカバー



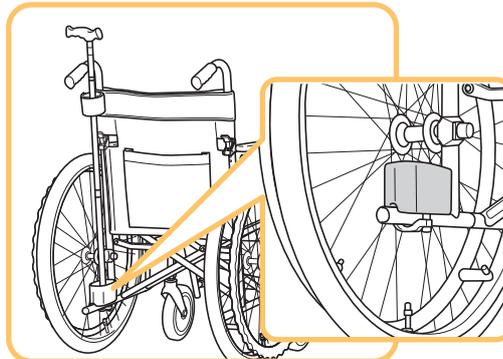
車輪(スポーク)に手を入れケガをすることを防止します。

クッション



体重の圧力を分散し、快適に座ることができます。
(いろいろな種類があります。)

杖入れ



車椅子後方に、杖を収納することができます。

その他にも

- テーブル
 - ガートル架
 - ボンベ架
- などご用意しております。

詳しくは、カタログをご覧ください。

もしこんなトラブルが発生したときは

車椅子をご使用されていて故障かなと、思うトラブルが発生したら、修理を依頼するまえに下記項目を確認してください。

トラブル	確認点	対処
タイヤの空気が少ない	・タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください
空気を入れてもすぐに抜ける	・タイヤの空気入れ部のネジは、しっかり締まっていますか	しっかり締め直してください
	・虫ゴムが劣化していませんか	虫ゴムを交換してください
走行操作が重い	・タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください
	・駆動輪・キャストに髪の毛、ビニールが巻きついていませんか	取り除いてください
真っ直ぐ走らない	・キャスト(前輪)が片べりしていませんか	取扱店にご連絡してください
キャリパーブレーキが効かない	・ワイヤが、ねじれていませんか	ワイヤのねじれを調整してください
	・ワイヤの遊びが多くありませんか	取扱店にご連絡してください
ブレーキが効かない	・タイヤの空気圧は適正ですか	空気を入れてください
	・タイヤは、磨耗していませんか	取扱店にご連絡してください

車椅子のお手入れの方法

■清掃は、水につけたタオルを強くしぼり、泥やホコリを拭き取った後に乾いた布で仕上げ拭きをしてください。

揮発性剤（シンナー・ベンジン・アルコール類）では、清掃しないでください。

変色したり、劣化の原因となります。

ホースなどで、直接水をかけないでください。車輪及びフレーム内部・ブレーキ部に水滴が残り、錆の原因となります。

■タイヤの空気圧、最適空気圧：350kPaを適正に保ってください。

空気圧が低いときは、補充してください。

■タイヤには、ひび割れを防ぐために老化防止剤が配合されていますので、次のような環境及び薬剤はさけてください。タイヤの劣化を促進させ、ひび割れの発生原因となります。

- オゾン (O₃)
- 光線(日光)、熱・伸張等の機械的作用。
- 銅・マンガンのような金属の塩、石鹼などの容易に酸化される物質。
- シリコン系ワックス（自動車タイヤ用ツヤ出し剤、潤滑剤（錆落とし含む））。

■車椅子に異常がある場合は、取扱店で、点検・修理をおこなってください。

その状態で使用されますと、使用中に破損し、事故の原因となります。

- タイヤの劣化・ひび割れ・空気漏れ
- 各部固定部品の変形
- ボルト・ナット・ビスの緩み
- フレームのひび割れ・曲がり・ガタツキ
- 駆動輪・キャストの変形
- キャリパーブレーキ・ブレーキの効き具合

空気圧管理不要タイヤメンテナンス方法

空気圧管理不要タイヤ

〈ハイブリッドタイヤ〉



安全にご使用していただくため、次の確認をお願いします。

- ・タイヤ表面の摩耗・亀裂。
- ・スムーズな回転、異音 等。
- ・車輪のホイールの傷の有無。
- ・駐車用ブレーキでロックした際、主輪は回転しないか。
- ・損傷 等。

※空気圧管理不要タイヤの交換目安は、お買い上げ後5カ年です。
(使用環境、使用頻度、使用状況による。)

※空気管理不要タイヤには、ウレタン素材を使用している物があります。
この素材は、水と反応し分解する(加水分解)性質があり、その結果タイヤのヒビワレ、
表面の剥離など発生する場合があります。メンテナンスの際には、十分に水分を拭き取ったあと
風通しの良い日陰でよく乾燥させてください。(直射日光は避けてください。)

※保管時にも、高温多湿、雨、直射日光に注意してください。

保管場所

次のようなところでは、保管しないでください。
故障の原因となります。

- 雨に濡れるところ
- 直射日光が当たるところ
- 湿気の多いところ
- 高温になる場所（45度以上）
- 炎天下

保証

● 保証期間は、お買上げ後1カ年です。（本体、付属品共）

ただし、次の場合は、保証期間中でも有償修理とさせていただきます。

1. 火災、天災による故障・損傷の場合
2. 取扱説明書に記載の使用方法、ご注意に反するお取扱いによって発生した故障の場合
3. 無断仕様変更及び、改造による故障の場合
4. タイヤの磨耗、パンク、シートのやぶれ、ブレーキ、リクライニング用ワイヤ、ブレーキゴム等の消耗品、及び各部の劣化による故障、損傷の場合
5. 修理に要した運賃等の諸経費
6. この保証書は日本国内のみ有効です。

アフターサービス

万一故障の場合は、お買上げいただきました販売店、または松永製作所へ保証書ご持参の上、修理をお申しつけください。



株式会社 **松永製作所**

〒503-1272 岐阜県養老郡養老町大場484

TEL0584-35-1180(代) FAX0584-35-1270

URL <https://www.matsunaga-w.co.jp>